

### 道徳教育の推進について

質問（小池利雄議員）紫塚小学校の道徳教育の取り組みについてお伺いいたします。

答弁（教育長 紫塚小学校では、道徳の時間に江戸しぐさを取り上げ、高学年の学級で江戸しぐさを自校化するために、紫小しぐさについての話し合いを行いました。紫小しぐさのキャッチコピーとして、「してうれしい、されてうれしい、みんな笑顔の紫小しぐさ」というものが決められ、具体的に元氣の出るあいさつや病気の級友への声かけ、

登下校での下級生に合わせた行動、明るい話題での声かけ等、さまざまな紫小しぐさが出てきたそうであります。紫小しぐさは、低・中・高学年の縦割り班活動を通して、高学年の児童が低・中学年の児童に伝えていく活動も始められております。これまでの取り組みの成果として、上級生が下級生に清掃の仕方を教えたり、登下校で重い荷物を持つてあげたりと、さりげない気遣いが見られるようになってくるなどの成果があらわれてき

ているとの報告を受けております。

教育委員会といたしましても、紫塚小の研究の取り組みを今後とも発信し、児童生徒の健やかな成長のために、道徳教育を推進してまいりたいと考えております。

市内小中学校三十五校で、それぞれの学校の望ましいしぐさを学校生活の中に定着させ、ひいては将来大田原市民全体が江戸しぐさを身につけ、思いやりの心を形であらわすことのできるまちになることを期待しております。



道徳教育を推進する紫塚小学校



親子での利用が多い大田原図書館

### 大田原図書館について

質問（引地達雄議員）大田原図書館についてお伺いいたします。

答弁（市長）大田原図書館は昭和五十六年四月に、市民が自主的に学び交流し、集うことができ、生涯学習の場として開館をいたしております。敷地面積五千五百七十七平方メートル、建築面積千八百七平方メートルの鉄筋コンクリートづくり二階建てとなっております。開館以来今まで、市民の自主的な学習活動や調査研究あるいはレクリエー

ション等に資するため、図書及びその他の図書館資料の提供を主とする諸活動を行ってまいりました。この間、多くの市民に利用され、現在に至っております。平成二十年度の大田原図書館の年間入館者数は二十万三千八百五十五人、一日当たりの入館者数は六百四十七人となります。年齢別利用者では、三十歳から三十九歳までの親子での利用者が、利用者全体の約27%を占めております。

また、平成十五年度に地方自治法が改正され、公共サービスにおいて、民間にできることは民間に委託し、代行させることができることとした指定管理者制度が制定されておりますが、ご案内のとおり市立図書館につきましても指定管理者制度を導入することとし、六月定例議会において大田原市立図書館の設置及び管理に関する条例が議決され、平成二十二年四月一日から、大田原図書館、黒羽図書館、湯津上庁舎図書室の二館一室が、指定管理者によって運営されることとなりました。